

(2) 「かごしま環境未来館」の5つの取り組み

①環境学習の推進

市民一人ひとりが環境問題について楽しく学び、環境に配慮した生活や行動ができるよう、参加・体験型の環境学習講座を開催しているほか、館内の展示を利用したワークショップ等も実施しています。

②環境情報の収集・提供

ホームページ等で環境情報を収集・提供しています。

また、館内の情報学習資料室では、環境に関する図書の貸し出し等を行っています。

③環境学習・環境保全活動の推進

「環境学習活動支援相談員」が、環境学習や環境保全活動に取り組む市民や環境団体などへの助言や、情報の提供を行っています。

④人材育成

「環境カレッジ」を開講し、地域の環境学習活動や環境保全活動などの取組みに対し、環境に関する総合的な視点と意識を持って自主的に指導・助言ができる人材の育成に取り組んでいます。

⑤リユース・リサイクル活動の促進

家庭で不用となっている日用品（未使用）を受け付け、ポイントとの交換を行っています。

また、リサイクルに関する講座の開催や日用品等の修理に関する相談を実施しています。

(3) 市民や事業者との協働した取組み ～環境フェスタかごしまの開催、エコパかごしまの支援～

かごしま環境未来館で開催するイベントには、市民・事業者と行政が協働して開催しているものがあります。

なかでも「環境フェスタかごしま」においては、市民や地域の市民団体、事業者、行政で構成された実行委員会が中心になって、環境に対する関心や意識を高めるイベントを開催しています。

また、“環境をより良くし、将来の世代にその環境を引き継いでいくために、持続可能な社会を構築していく”ことを目的とし、市民・事業者・行政等の会員からなる「環境パートナーシップかごしま（通称：エコパかごしま）」も実行委員会に入っており、地域における環境学習や環境保全活動の推進に関するパートナーシップの構築に貢献しています。

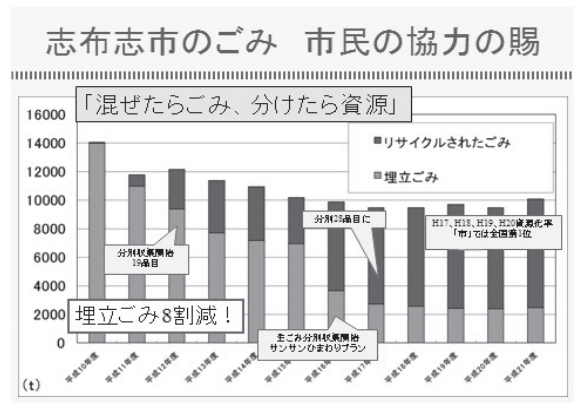


甲突川竹いかだ体験（環境フェスタかごしまにて）

2 志布志市モデル海を渡る！（フィジー国廃棄物減量化・資源化促進プロジェクトについて）（志布志市）

(1) 取組みの経緯

志布志市にはごみ焼却施設がありません。市民から排出された一般廃棄物はすべて埋立処分をしていました。この埋立処分量を減らすため、平成12年度の容器包装リサイクル法の施行に伴い「資源ごみ」の分別収集を開始しました。さらに、平成16年度から「生ごみ」の分別収集を開始し、生ごみから堆肥を製造しています。現在は28品目の分別収集を実施し、その結果、最終処分場への埋立処分量を8割削減することができ、施設の延命化が図られました。また、ごみの資源化率は平成20年度実績で74.9%と資源の有効活用を実施しています。



分別によるごみの減量化の取組みは、国内外を問わず高い評価を受け、多くの方が視察・研修に訪れています。また、各地で環境政策の取組み等について発表しています。

平成19年8月、環境省の第36回中央環境審議会循環型社会計画部会において、志布志市の環境行政について発表を行った際、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」という）の要請により、平成20年度から「フィジー国廃棄物減量化・資源化促進プロジェクト」に参加することとなり、「分別してごみを減らす」という概念とごみ分別手法の普及等の支援を行っています。

(2) フィジー国のごみ処理の概要

フィジー国を含む大洋州諸国では、ごみ焼却処理施設を設置する技術や経済力もなく適切な廃棄物処分場の確保が困難で、また、生活物資のほとんどを輸入に頼っているため、先進国と同様に廃棄物が多種・多量に排出されます。この廃棄物は分別されることなく、自然環境に配慮することもなく、焼却や埋立処分され国内の公衆衛生に影響しています。廃棄物の発生抑制、ごみ減量化・資源化が重要な課題となっています。



(3) プロジェクト概要

平成19年11月に事前調査を行い、平成20年10月から平成24年3月の期間で実施しています。まず、フィジー国内の廃棄物管理の状況調査を実施し、調査結果を基に廃棄物処理の現状を把握し、「廃棄物処理計画」の策定を目指します。また、各地区のコミュニティ調査を実施し、調査結果を基にパイロットプロジェクトを実施し適切な廃棄物管理能力を獲得します。さらに、3R推進を実施するために必要な研修を実施し、環境教育を充実させます。

以上の活動により、廃棄物処理・管理能力の獲得による適切な廃棄物処理が実施され、また、環境教育を通じ国民の意識向上が図られると考えられます。

志布志市は、プロジェクトの現地調査（運営指導調査・中間評価調査）に同行し、フィジー国にて廃棄物の適正処理指導やごみ分別の取組みを紹介しました。また、カウンターパート職員の視察を受け入れ、環境行政職員のみならず、市民との交流を深めています。



(4) 今後の課題

「フィジー国廃棄物減量化・資源化促進プロジェクト」とは別に、フィジー国及び大洋州諸国に対し、ごみ分別手法、廃棄物減量化・資源化の普及、3R活動定着を支援する事業としてJICAの草の根技術協力事業に応募しました。プロジェクト終了後のフォローアップも兼ねた事業で、フィジー国及び大洋州諸国において、廃棄物減量化、3Rが徹底されることを目指します。

ごみを焼却せずに分別して埋立ごみの減量化に成功した取組み「志布志市モデル」を国内外に発信していき、分別ごみ出しを通して住民と行政の共生・協働・自立のあり方も追求しながら、志布志市の経済発展・志布志ブランドに繋げていくよう取組んでいきます。

志布志市HP

<http://www.city.shibushi.lg.jp/www/contents/1235713759481/index.html>